## 三角島に行くときは…

- 子どもだけで行かないようにしましょう。
- 畑は私有地です。畑には入らないようにしましょう。
- ごみを捨てないようにしましょう。
- 歩く場所は堤防の上の歩道だけにしましょう。

三角島ふるさとの森プロジェクト

事務局 安曇野市商工観光部観光交流促進課
☎0263-71-2000(代表)
〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地

Rotary 三角島ロータリーの森プロジェクト

有限会社 大王




三角島ふるさとの森

# わたしたちの三角島

三角島ふるさとの森プロジェクト

## 三角島へのアクセス

三角島は、大王わさび農場の駐車場と水色の時道祖神の駐車場から徒歩で移動できます。

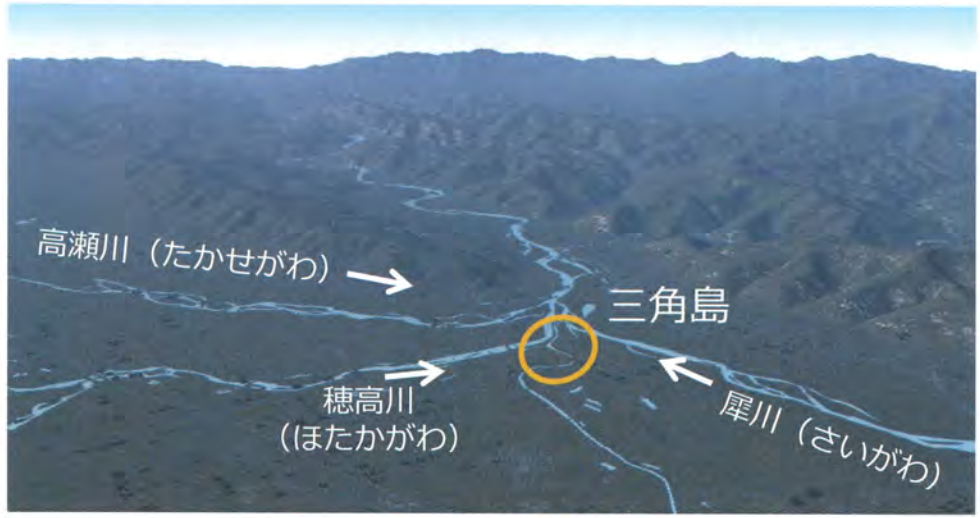
➢駐車場…大王わさび農場・水色の時道祖神。
散策ルート…車道から欠の川沿いの堤防に入ります(入口にゲートがありますが、人は通行可能です。)。しばらく堤防上を歩くと橋を渡ります。左手奥に森が見えてきますが、それが三角島の森です。橋より万水川の堤防沿いに島を一周できます。

## 民謡「安曇節」にも歌われる場所

♪槍で別れた　梓と高瀬　めぐり逢うのが　押野崎♪

信州安曇野を代表する民謡「安曇節」に歌われる一節です。槍ヶ岳を源流とする梓川(途中で犀川となります)と高瀬川、加えて蝶ケ岳・常念岳・燕岳を源流とする穂高川。

この三つの河川が明科・押野崎付近で合流(めぐり逢い)します。この「三川合流」地点の近くに“三角島”があります。



## 三角島の美しい景観

安曇野の地形の特徴は、北アルプスから押し出された土砂が堆積した扇状地がいくつも重なってできた複合扇状地(せんじょうち)であることです。この地形を形作った河川は、私たちに豊かな恵みをもたらす一方で、たびたび氾濫(はんらん)を繰り返してきました。三角島は、この河川が作りだす地形のひとつ(中州)で、昔の河川が暴れた名残(なごり)です。

三角島付近は、大きな三つの川(高瀬川・穂高川・犀川)のほかにも小さな川が集まっており、三角島はこれらの河川に守られた手つかずの自然です。周辺には大王わさび農場のほか、黒澤明監督映画「夢」(1990年(平成2年)公開)で有名となった水車小屋など、安曇野を代表する美しい風景や観光スポットがあります。

ワサビの花

ワサビ田



## 三角島の四季

三角島の森は散策することができ、歩くだけでも気持ちの良い隠れた名所となっています。

春

夏

秋

冬

## 広がるワサビ田

三角島の周りには、ワサビ田が広がっています。このワサビ田の開拓がはじまったのは、1917年(大正6年)のことです。

ワサビの栽培には豊富な地下水が必要です。ちょうど三角島の周りは、地下水のたくさん湧き出る場所なのです。

三角島の周りに広がるワサビ田

造成中のワサビ田(1926年(大正15年))

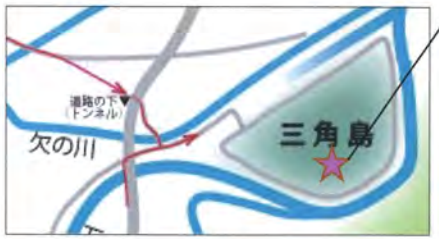


## 犀川の氾濫にまつわる歴史

現在は三角島の東を流れる犀川は、豊科の熊倉(くまぐら)付近からこの三川合流付近まで、頻繁(ひんぱん)に流れが変わっていました。江戸時代の古文書では、大王わさび農場付近を流れていたと推定される記述もあります。

川は、それを挟む対岸の村との境界にあたります。右下の写真は、その境界を示す標識です。この標識が三角島に残っており、「上川手村」と「東穂高村」の文字が刻まれています。現在のようにしっかりとした堤防がない時代、対岸同士で境界争いも数多く起こっていました。村人や村を領地とする領主にとって、自分たちの土地がどのくらい確保できるかは深刻な問題だったのです。

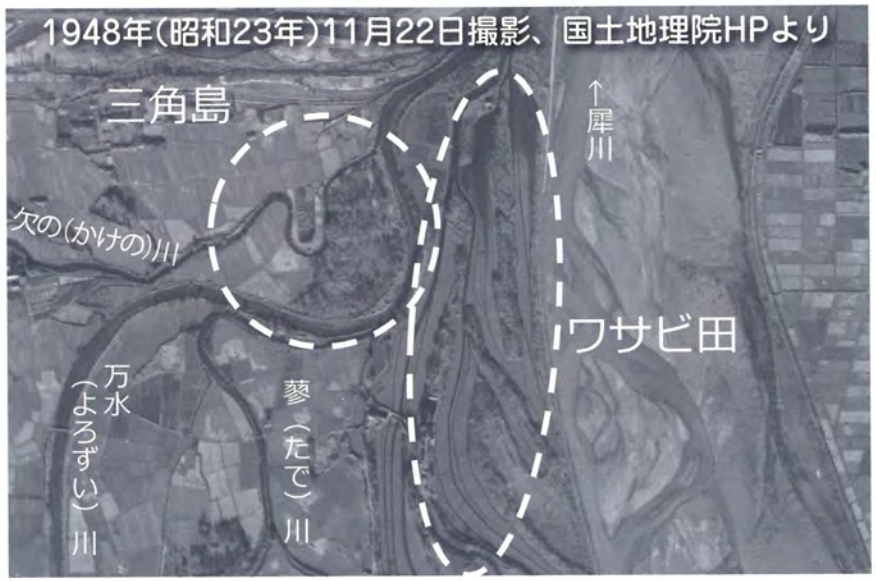
三角島はこのように、自然の変遷や土地の歴史を今に伝えてくれています。



三角島内に残された境界目印
(上川手村と東穂高村の文字が刻まれている)

## 三角島と周辺の変遷①

昔は大雨のたびに洪水となり、三角島の周辺も川が氾濫して、樹木がなかなか大きくなれない場所でした。



## 三角島と周辺の変遷②

堤防や護岸の整備、上流のダム建設により、洪水が少なくなり、今は河原に樹木が茂ってきました。

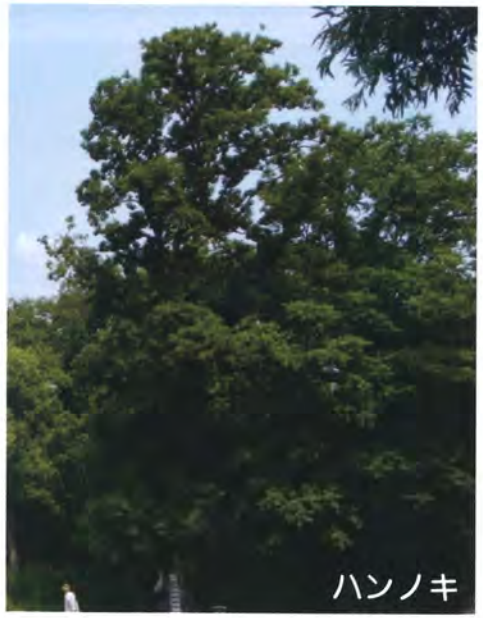
# 三角島の森

樹高の高い木は、主にヤナギ類(コゴメヤナギ、タチヤナギなど)に分類されます。

安曇野の低地はかつて湿地だったといわれており、大部分は森林に覆われていました。その森林は湿った場所を好む樹木の林(ヤナギ類、ハンノキ、ヤチダモ等)でした。

三角島には当時の名残(なごり)の樹林が、人手は入っているものの残っています。

コゴメヤナギ


ハンノキ

現在の三角島には、外来種のニセアカシアが多く成育しています。本種は繁殖力が強く、在来種へ影響を及ぼす可能性があるため、取り扱いについて議論が必要です。

三角島の樹林は、ほとんど失われた安曇野の平地の半自然林として、景観(けいかん)形成上また希少性として価値があり、また湿性(しっせい)植物の成育地として、生物多様性の保全としても大切な場所です。

森は、樹林を利用する動物、特に森林性の野鳥類の宝庫であり、ビオトープ(生物の生息場所)としても価値があります。また、ワサビ田や屋敷林(やしきりん)と一体となったビオトープネットワーク(いろんな生き物が暮らす空間のつながり)としても価値があります。(土田勝義　信州大学名誉教授)

ニセアカシア

## 三角島の生きもの

三角島の森には、マガモやサギ類など水辺の鳥のほか、開けた草地などにすむホオジロ、森林にすむコガラやコゲラなどの野鳥もやってきます。

ホオジロ

マガモ

コガラ

コゲラ

スナヤツメ

三角島周辺の川は水質が良いため、スナヤツメなどの珍しい魚もみることができます。



## 三角島にくらすサギの仲間

三角島にあるアオサギのコロニー(集団営巣地)は、県内でも最大級の規模です。ゴイサギやダイサギなどと合わせて300以上の巣が確認されています。

アオサギ

ゴイサギ

樹上に木の枝を組み合わせた皿状の巣を作り、松林などに集団営巣地を形成します。

安曇野市では、1980年ころからアオサギのコロニーが見られるようになりました。以前は、市内に何か所かありましたが、今では三角島のコロニーのみになっており、県内で最大規模です。

一方で、集まったサギ類の農業や漁業への被害も一部問題になっています。

## 三角島ふるさとの森プロジェクトのあゆみ

■アレチウリ除去活動

三角島では近年、ウリ科の外来種アレチウリ(生態系へ被害を及ぼす可能性あり)の繁茂が目立つため、プロジェクトでは除去活動をおこなっています。

■スケッチ大会

プロジェクトでは、市民参加のイベントとして、地元の画家を講師にお迎えし、「三角島の自然を描く集い」を開催しています。

■自然観察会

市民参加のイベントとして、スケッチ大会のほか、自然観察会を開催しています。

## 三角島ふるさとの森プロジェクトの歴史

- 2004年(平成16年)台風16号により万水川(よろずいがわ)が氾濫(はんらん)。大王わさび農場駐車場は、浸水(しんすい)被害を受ける。
- 長野県は、氾濫防止のため万水川に護岸(ごがん)を計画。
- 河川工事による安曇野の重要な景観(けいかん)と環境を損なうことのないよう、2005年(平成17年)に当プロジェクトの前身となる「万水川水車小屋周辺の景観を語る会」が結成され、市民参加による景観保全の議論(ぎろん)がスタート。
- 2006年(平成18年)には長野県への提言書をまとめ、あづみ野ロータリークラブの協力も得て、2009年(平成21年)に「三角島ふるさとの森プロジェクト」として再スタート。
- 県・市と三者で締結(ていけつ)した河川アダプトプログラム事業(長野県河川愛護(あいご)活動支援事業)、年4回の清掃活動、年2回の子ども対象のイベント実施などが評価され、2013年(平成25年)2月国土交通省北陸地方整備局より「手づくり郷土賞(きょうど)」を受賞(じゅしょう)。
- 2019年(平成31年)3月道路河川愛護活動知事表彰(ひょうしょう)。

表彰式の様子
2013年(平成25年)2月20日